

# 經濟論叢

第157卷 第1号

尾崎芳治教授記念號

---

献 辞	菊池光造	
資本循環と資本類型	渡辺尚	1
イギリス土地貴族デヴォンシア公爵の アイルランド所領経営	本多三郎	29
J. F. ジェルム「19世紀フランスにおける 雇用と労働力」の検討	清水克洋	60
『資本論』における一般的・ 歴史的範疇について	梅垣邦胤	80
ドイツ大土地所有史小論	加藤房雄	96
ナチ経済とアメリカ大企業	西牟田祐二	119
現代アメリカの農地所有構造	中野一新	143

尾崎芳治 教授 略歴・著作目録

---

平成8年1月

京大經濟學會

## 献 辞

尾崎芳治先生は、1996年2月25日満63歳の誕生日を迎えられ、3月31日を以って本学を定年退官されることになりました。

先生は、1955年3月に京都大学経済学部を卒業された後、京都大学大学院経済学研究科に進学、大学院での学業を終えられた後、1961年京都大学助手（経済学部）に着任され、64年より同助教授を経て、1983年からは経営史講座（講義科目としては経営史及び西洋経済史）担当の教授として総計35年間の長きにわたり京都大学経済学部の教育・研究活動に尽力して来られました。

先生は、イギリス革命の研究によって研究をはじめられました。そこにおいてはとくにわが国の比較経済史学の一大潮流たるいわゆる「大塚史学」による歴史像、各国資本主義の類型論的な把握の批判的克服を志されました。イギリス革命における土地闘争が通説とは異なって「地主的な道」を掃き清めたことを確証する先生の実証的研究こそが、従来のイギリス資本主義像を覆し、そのことがさらには従来イギリス資本主義の対極的類型に位置づけられてきたドイツ資本主義やロシア資本主義、日本資本主義、また当のイギリス資本主義やフランス資本主義、アメリカ資本主義の新たな発達史像の構築へ向けてのききな地平を切り開くものとなったのであります。先生のご指導のもとから年を追うごとに多くの優れた研究者が育ち、いまやこうした点で新たな潮流が作りだされているのもその所以であろうと思います。

またそれと同時に先生の研究の発展は、経済学と歴史学の往復作用の中で、マルクスの人間開放の思想と理論の再発見と体系化にも結実して行きました。これらは『経済学と歴史変革』（1990年）ほか多数のご労作へと結晶しています。

先生は、さらに近年においては、1986年1月から京都大学評議員として、また1988年1月からは経済学部長・経済学研究科長として重責を担われ、経済学

部の論文入試導入などの教育改革にも多大の努力を傾注されました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功労に対する敬意と感謝の気持ちをこめて、『経済論叢』の本号を記念号として編集いたしました。先生のご指導を受けられた方々から寄せられた論文を編んで本号を先生にお贈り出来ることは、わたくしどものこのうえない慶びであります。

先生が今後ともますますご健康で、学界のため、またご研究の発展のため活躍なさいますことを、心からお祈りいたします。

1995年12月10日

京都大学経済学部長 菊池光造